

2011年4月27日

お客様各位

株式会社やまびこ

エンジン発電機を安全に正しくご使用いただくために

東日本大震災の停電対応などのため、エンジン発電機をご利用いただくことが急増しています。エンジン発電機を安全に正しくご使用いただくため、特に重要な下記の項目を必ず守ってください。



危険：排気ガス中毒

- エンジンの排気ガス中には、一酸化炭素など人体に有害な成分が含まれていますので、室内・トンネル・車中などの換気の悪い所では運転しないでください。一酸化炭素中毒をまねく恐れがあり大変危険です。



危険：感電

- 運転中、発電機や体がぬれているときは、発電機に触れないでください。
- 出力コンセントに、ピンや針金などの金属物を入れないでください。
- 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。



注意：排気ガス中毒

- 排気を通行人や民家などに向けしないでください。



注意：目や皮膚の傷害

- バッテリー液には希硫酸が含まれていますので、目・皮膚・衣服などに付着させないでください。付着したときはすぐに多量の水で洗い流し、特に目に入ったときは必ず医師の診断を受けてください。



注意：感電

- 発電機に水をかけたり、雨中での使用はしないでください。
- 運転中は、スパークプラグ・プラグキャップ・高圧線には触れないでください。



注意：爆発

- バッテリーは引火性ガスを発生しますので、付近でスパークさせたり火気を近づけないでください。



注意：火災

- 発電機は、燃料としてガソリンや軽油を使用しています。燃料の点検や給油・抜き取り、燃料コックの清掃などを行うときは、必ずエンジンを停止し、絶対に火気を近づけないでください。また、エンジンが冷えてから行ってください。
- 燃料をこぼしたときは、必ずふき取ってください。また、燃料もれがある場合は、絶対に使用せず、必ず修理してください。
- マフラーや排気ガスなどは高温となるため、引火性のある物（燃料・ガス・塗料など）や燃えやすい物は、発電機に近づけないでください。
- 発電機は壁などの障害物から1 m以上離し、水平な場所で運転してください。
- 交流電源は屋内配線に接続しないでください。
- 保管用カバーなどをかけるときは、発電機が冷えてから行ってください。



注意：やけど

- 運転中や停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、触れないでください。
- エンジンオイルの点検・交換を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。運転中にオイルゲージを開けると、高温のオイルが吹き出します。



注意：けが

- 吊り金具のある発電機を吊り上げるときは、必ず吊り金具を使用してください。取手で吊り上げると、取手が破損して落下することがあります。
- 発電機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置してください。車輪があるものは必ず車輪止めで固定してください。
- エンジンを始動するときは、必ず使用機器のスイッチを切り、交流出力スイッチを『OFF』にしてください。交流出力スイッチを装備していない発電機は、使用電気器具を接続しないで始動してください。
- 運転中に移動しないでください。
- 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。
- 改造したり、部品をはずしたままで運転しないでください。



安全のため、ご使用前に必ず発電機の取扱説明書をお読みください。